

聖心女子大学  
2026年度 総合型選抜（アドミッション・オフィス方式） 小論文  
解答と講評

【解答】

問1

- ・ 養育・ケアにかかる労働を、とくに家族の中にいる女性に割り当てること
- ・ 家庭における家事育児にかかる労働を男性か女性かといった性別によって割り当てること
- ・ 男性は外で働いて稼ぎ、女性は家庭を守るという性別による分業のこと

など。

問2 エ 問3 ウ 問4 エ

問5（下記の講評を参照）

【講評】

今回、日本におけるジェンダーと労働および経済格差の問題をテーマとしてとりあげ、データを正確に読み取ることができているか、データから導かれる著者の主張を理解しているか、さらにはその理解内容に基づいて自分の意見を論理的に述べているか、を総合的に評価しました。

問1は、用語理解の問題で、性別分業という基本的用語の説明を求め、上記解答例のような内容が適切に書かれていれば正解としました。資料中の言葉を用いても用いなくても、一般的定義をおこなえるかどうかを評価しました。資料中の無関係な用語や文章をそのまま記述している場合は減点対象となりました。

問2から問3までは、複数の選択肢から記号を選んで答える形式の問題です。問2は、何が原因で女性の家庭内負担、シングルマザーの貧困、仕事環境の厳しさといった諸問題が生じているかを資料から読み取る問題で、高い正解率が見られました。問3は、資料にある点グラフから女性の就業率と管理職従事率を同時に読みとり、10数か国の状況を比較する力が問われる問題で、正解率はやや低めでした。

問4は、資料にある棒グラフから一人親世帯の貧困率について10数か国の状況を比較し、著者の主たる論点を読み取る問題で、正解率はやや高めの結果でした。

問5は、資料を読み、その要点を踏まえた上で日本における労働とジェンダーの問題について受験者自身の意見を述べてもらうことを意図した問題でした。資料の中で提起された「性別分業（ケア役割と稼得役割の分業）」、「家族依存の福祉」「男女の賃金格差、女性の管理職従事率の低さ」「日本的雇用、男性的働き方の問題」「ひとり親の貧困率」といった問題

に触れ、自らの見解が論理的に示されている場合は高評価の対象としました。ジェンダーと労働に関しては、普段から考えることが多かったり、高校の総合的探究の授業で扱ったりして、予備知識を持つ受験生が多かったと推測されます。その分、資料を踏まえずに自分の意見ばかりが前面に出され高得点に結びつかないケースも多く見られました。全体として、資料の要点をふまえ、文章が論理的で了解可能であり、また具体的で建設的な意見を書けていた答案是、高得点の対象となりました。